富山赤十字病院

第121号

地域医療連携だより

えん

発行日：令和５年12月　発行所：富山赤十字病院　富山市牛島本町２丁目１番58　TEL. 433−2492　発行責任者：時光 善温

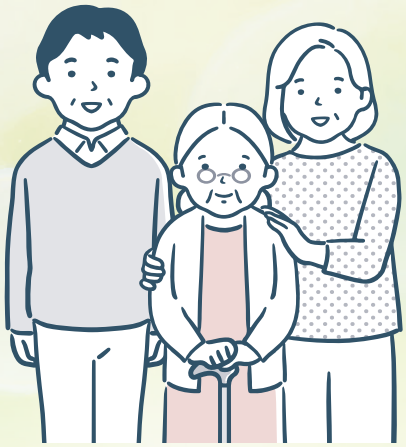
高齢者診療とACP

呼吸器外科部長　宮津　克幸

高齢者の癌治療における注意点は「癌である」状態に加えて「併存疾患が多い」という特徴を把握することです。体力面での脆弱性や認知機能の問題がある場合には更に慎重にならざるを得ず、また「社会との関わり」で問題を抱えておられる方の場合ではその対応にも苦慮します。しかし、これらを総合的に評価した上で治療方針を本人・家族（もしくは近親者）と相談し決定する事が担当医の務めだと思っています。

「社会との関わり」という問題の多くは「独居」です。厚生労働省が発表した2020年時点の65歳以上の高齢者人口は3,619万人で、これは総人口の28.8％を占めます。また、2019年のデータによると高齢者が暮らす世帯のうち「夫婦のみの世帯」が827万世帯で全体の32.3％であり、「単独世帯」では736万9,000世帯で全体の28.8％を占めていました。つまり、高齢者がいる家庭ではその60％以上が高齢者だけで暮らしていることになります。高齢者だけで暮らす世帯は1986年のデータでは全体の31.3％だったことから、34年間で2倍近く増加していることになり、今後10年は更に増加すると考えられます。

「独居」そのもののリスクとしてQOLの低下があります。また日常的にコミュニケーションを図る相手がいないため感情面での起伏が少なくなり、生活にメリハリがなくなります。人の目が付かないことから食事・掃除・洗濯・入浴といった家事もおざなりとなり、不衛生状態が続くことで健康が害される可能性もあります。QOLと関係しますが、生活に緊張感がなくなることで認知症の進行も加速するともいわれています。さらに、急病の際に緊急連絡が難しくなることで発見されるまでに時間もかかり、孤独死となるリスクが上昇します。



偶に紹介患者さんの中で「癌が疑われる状態」にも関わらず、お一人で外来へ来られる方がおられます。初診時においてご家族に説明が出来ないと、患者さん本人の理解力によってはご家族に病状が正しく伝わらない事もあります。稀に全く情報を伝えておらず、病院から連絡をすることでご家族が患者さんの病状を知ったというケースもありました。

当科では病状が落ち着いている段階でのACP（アドバンス・ケア・プランニング）を推奨しています。ACPの相談にはご家族の存在が不可欠です。患者さんやご家族にもそれぞれの事情やプライバシーがあるとは思いますが、今後も可能な範囲でご家族同席での診療を続けていこうと考えています。

第84回地域医療連携の会

令和5年11月30日(木)午後7時より、富山赤十字病院教育研修棟3階講堂において「第84回地域医療連携の会」が開催されました。開業医の先生19名、当院医師、看護師、コメディカルを含め総勢60名の参加がありました。

小児アレルギーセンター長　足立雄一医師より「アレルギー診療Up To Date」、第2血液内科部長　望月果奈子医師より、「関節リウマチと悪性リンパ腫」の演題で発表があり、活発な質疑応答や意見交換が行われました。

アレルギー診療 Up To Date

小児アレルギーセンター長　足立　雄一

食物アレルギーの診療では、経口負荷試験による食事指導が大きな役割を持っているが、食物抗原特異的IgE測定でもその値から負荷試験の結果を予想するプロバビリティー・カーブを用いることで少量摂取につなげられます。また、木の実(くるみ、カシューナッツなど)アレルギーの患者が急増し、最近の食物アレルギー3大食品は鶏卵、牛乳、木の実(以前は小麦)となります。ピーナッツ、クルミ、カシューナッツでは、それぞれに含まれる症状誘発との関連が高いタンパク(コンポーネント)に対する特異的IgE抗体を測定することで、より診断精度が高まっています。また、アレルギー疾患の子どもたちは、そうでない子どもに比べてADHDなど発達障害と診断される例が有意に多いことが近年報告されました。中でも食物アレルギーで食物除去が長期にわたり、時にアナフィラキシーを経験することで、食へのこだわりが強くなると共に摂食障害に至るケースもあり、子どもの特性や気持ちを考慮に入れたアレルギー診療が求められています。

関節リウマチと悪性リンパ腫

第2血液内科部長　望月　果奈子

関節リウマチ(RA)に対してメトトレキサート(MTX)が使用されるようになってから、MTX使用中に発生した悪性リンパ腫が、MTXの中止で消失する例が報告されるようになりました。当初はWHO分類に「MTX関連のリンパ増殖性疾患(MTX-LPD)」として収載されましたが、現在ではMTXに限らず免疫抑制剤を使用した患者におけるLPDは「他の医原性免疫不全関連リンパ増殖症(OIIA-LPD)」と定義されています。

実際の例を紹介します。RAに対しMTX使用開始後約15年で右頸部リンパ節が腫大し、生検でびまん性大細胞型B細胞リンパ腫と診断された例では、MTX中止後に病変はすみやかに消失し、以後再燃なく経過しています(図)。このような、MTX中止のみで追加治療を必要としない例はMTX-LPDの1/3程度と報告されています。

RAからLPD発症までの期間は中央値10年以上、MTX開始からLPD発症までは中央値5～7年と言われています。自己免疫疾患の治療中の患者さんでリンパ節腫大が見られた場合、生検による診断が必要となります。是非当院にご紹介ください。

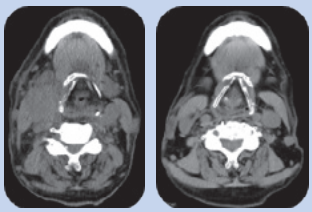


図　症例の頸部CT画像。
(A)診断時。(B)3か月後。

「プレ妊活健診」が始まりました！

第1産婦人科部長　桑間　直志

富山県は少子化対策の一環として、将来子どもを望むご夫婦を対象に、妊娠・出産に影響する疾患を早期に発見し、現在のからだの状態を把握することで、早期治療に繋げるとともに、将来の妊娠にむけた健康管理（プレコンセプションケア）を推進し、夫婦の理想のライフプランの実現や若い夫婦のウェルビーイング向上を目指すことを目的とした「プレ妊活健診」を開始しました。

対象は県内に住所を有し（スタート時点での実施市町村は、小矢部市、射水市、舟橋村、入善町、朝日町ですが、今後実施市町村は増える見込みです）、妻の年齢が40歳未満で婚姻後3年以内の夫婦あるいは事実婚の方です。

検査費用の3万円は、助成により無料となります。

対象の市町村に居住し希望されるご夫婦は、まず市町村の窓口に申請し、受診票を受け取ります。医療機関に受診予約をし、ご夫婦で受診していただき、産婦人科にて健診を行い、後日結果を説明します。

検査内容は、男性は空腹時血糖、LDL-C・HDL-C・TG、精液検査（検査キットでの自己検査）、女性はTSH、HPV、クラミジア、梅毒、超音波検査です。

検査結果によっては、後日改めて受診していただき、産婦人科や母性内科で精密検査を行います。

先生がたの施設に通院中の方で、対象となるご夫婦がおられましたら、富山県で上記事業が開始され、当院でも「プレ妊活健診」を行っていることをご周知いただき、受診を促していただければと思います。詳細については、産婦人科外来または健診センターにお問い合わせください。

2023年10月27日より開始しています。

病院代表番号　076-433-2222

健診センターで予約受付しております。

地域連携緩和ケア検討会

がん診療連携推進室長　佐々木　正寿

11月15日（水）18時から地域連携緩和ケア検討会を開催しました。今年度は、会場とZOOMによるハイブリッド開催とし、院内外から医師、薬剤師、看護師、MSWなど計52名の参加がありました。

“乳がんの多発肺転移による呼吸不全にて緩和治療病棟に入院され在宅療養へ移行した患者の意思決定支援”について、多職種で意見交換を行いました。呼吸器症状の苦痛緩和を図り、急変する可能性のある中で家族とともに家で過ごすことを選択され、現在も在宅医や訪問看護師、ケアマネジャーなどの医療、介護を受け在宅療養をされている事例でした。

「もしものとき」に備えて、患者さんとご家族とともに大切にしていることなどを話し合い、共有し、地域につなぐことが大切であると再確認できました。

今後も、患者さんやご家族とACP（人生会議）を実践し、在宅医療や福祉、介護を担う方々と共有することで、患者さんが自分らしく過ごせるよう支援していきたいと思います。

作品展示会

緩和治療センター師長　　山本　百合

緩和治療病棟では、毎月四季折々の行事を計画しております。11月は「文化・芸術の秋」に因んで、11月15日～30日まで「作品展示会」を開催しました。入院されている患者さんや病院職員から、作品を募集し、書道や手芸、写真、折り紙など25点展示させていただきました。作品展示期間中は、入院されている患者さんやご家族の方と一緒に、展示作品を鑑賞しました。展示会場に行くだけで、外出した気分を味わえ、「病院にいることを忘れる時間になった」、「景色がとってもきれいな写真だわ。」、「素敵な作品ばかり、私も〇〇するのが好きだったのよ。」とお話してくださり、穏やかな時間を過ごすことができました。

緩和治療病棟では、からだや心のつらさが少しでも和らぎ、毎日が穏やかに過ごせるよう、患者さんやご家族の思いに添って支援をしています。当病棟で療養を希望される方がおられましたら、患者支援センターにご紹介をお願いいたします。

世界糖尿病デー

糖尿病チーム　栄養課　佐野　由香

11月14日は世界糖尿病デーです。IDF（国際糖尿病連合）とWHO（世界保健機関）が糖尿病抑制に向けたキャンペーンを推進し、世界でも有数な疾患啓発の日となっています。日本でも全国各地で糖尿病の啓発活動がおこなわれ、当院でも2010年から毎年、糖尿病週間のイベントを行っています。

今年のテーマを「偏見にNO!　～糖尿病には、あなたの正しい理解が必要です～」とし、糖尿病の新たな呼称案「ダイアベティス」や、食事療法、運動療法などのポスター展示を行いました。また、看護師による血糖測定や健康相談、管理栄養士による栄養相談の他に5年ぶりに医師、理学療法士、臨床検査技師、管理栄養士による公開糖尿病講座を行いました。参加者からは、「糖尿病について詳しく知ることができ感謝です。」「デジタルサイネージをいつも見ていて、知識がすりこまれました」といった感想がありました。多くの方に糖尿病に対する知識を高め、予防・治療・療養に役立てて頂けるように、このような活動を続けていきたいです。

医療安全推進月間

医療安全推進室　相談窓口担当師長　石田　美幸

厚生労働省では、「患者の安全を守る」ことを中心とした総合的な医療安全対策を推進するため、「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動（ペイシェント）・セーフティ・アクション」と命名し、様々な取り組みを推進しています。当院では、11月1日から11月30日までを医療安全推進月間として、3つの啓発活動を行いました。一つ目は、全職員が医療安全推進バッチを着用し、患者さんにフルネーム、生年月日を名乗ってもらう、安全対策を推進しました。二つ目は、各部署の医療安全への取り組みを、職員の写真と共に掲示し、患者さんに知ってもらう機会としました。三つ目は、職員対象に医療安全に関する研修として、高山赤十字病院の西尾優先生による講演を開催し、心理的安全性が担保できる職場風土の構築の重要性を学びました。医療安全推進月間だけに留まることなく、日々安全活動に邁進していきたいと思います。

1月、2月の外来診療に関する医師不在日案内

1月

科名	医師名	不在日
脳神経外科	桑山　直也	19日(金)
小児科	津幡　眞一	25日(木)
内科	岡田　和彦	9日(火)
	品川　和子	9日(火)

2月

科名	医師名	不在日
小児科	津幡　眞一	29日(木)
	足立　雄一	9日(金)PM
	宮森加甫子	14日(水)
高令心療科	殿谷　康博	9日(金)
泌尿器科	山本　篤	2日(金)

※不在日には、代診を立てております。

患者支援センターからのお知らせ

「第85回地域医療連携の会」

日　時：令和6年1月31日(水)　午後7時から
場　所：富山電気ビルディング　5階　大ホール
講　演：◇「消化管外科領域の最新の話題」
金沢大学医薬保健研究域医学系
消化管外科学／乳腺外科学　教授　稲木紀幸　先生

※みなさまの参加をお待ちしております。
感染防止対策を十分に行った上での開催となります。ご理解・ご協力の程よろしくお願い致します。

編集後記

日頃より地域の先生や医療スタッフの皆さまには、ご支援・ご協力いただきありがとうございます。4月より配属となっています石黒です。患者さんが安全・安心な療養生活を送れるように、地域の皆様との信頼関係を大切に、切れ目のない医療を目指していきたいと思っております。不慣れな点からご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

さて、師走に入り寒さも本格的になってまいりました。先日、紅茶セミナーに参加しました。茶葉の産地や製法、紅茶の美味しい淹れ方の講義を受け、紅茶の香りに包まれ、美味しく、身体も温まり、とても癒されました。ご存知の方も多いと思いますが、紅茶は製造過程で発酵させているので、身体を温めてくれる作用があるそうです。コーヒー派の私でしたが、この冬は美味しい紅茶で体の中から温まり乗りきっていこうと思います。

寒さ厳しい折、皆さまもどうぞ暖かくしてお身体に気をつけてお過ごしください。

(患者支援センター　看護師長　石黒　優子)

紹介依頼など、下記までお問い合わせください。
富山赤十字病院
患者支援センター
TEL：076-433-2492　FAX：076-433-2493
e-mail：byousinrenkei@toyama-med.jrc.or.jp
夜間・休日のお問い合わせは…TEL：076-433-2222(代表)
Fax：076-433-2410(夜間・休日のみ)